

ホームID	ホーム名		法人名		評価日
2801	敬老園札幌		宗教法人阿弥陀寺		H29.1.17
評価機関	特定非営利活動法人福祉経営ネットワーク				H29.1.31

評価結果

スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価
1.1.1	A	B	2.3.4	A	C	6.2.1	A	A
1.1.2	A	A	2.3.5	A	A	6.2.2	A	A
1.1.3	B	A	2.3.6	A	A	6.2.3	A	A
1.1.4	B	B	2.3.7	A	A	6.2.4	A	A
1.2.1	B	B	2.3.8	A	A	6.2.5	A	A
1.2.2	A	A	2.3.9	A	A	6.2.6	A	A
1.2.3	A	A	2.3.10	A	A	6.2.7	A	A
1.3.1	A	A	2.3.11	A	A	6.2.8	A	A
1.3.2	A	A	2.4.1	B	B	6.2.9	B	B
1.3.3	A	A	2.4.2	B	B	6.3.1	B	B
1.4.1	B	B	2.4.3	A	A	6.3.2	A	A
1.4.2	B	B	2.4.4	A	A	6.3.3	C	C
1.4.3	B	B	2.4.5	A	A	7.1.1	A	A
1.4.4	B	A	2.4.6	A	A	7.1.2	A	A
1.4.5	A	A	3.1.1	A	A	7.2.1	A	A
1.4.6	A	A	3.1.2	A	A	7.3.1	B	B
1.4.7	A	A	3.1.3	A	B	7.3.2	A	A
1.4.8	A	A	3.1.4	A	A	7.3.3	A	A
1.5.1	A	A	3.1.5	B	B	7.3.4	A	A
1.5.2	A	A	3.1.6	A	A	7.4.1	B	A
1.5.3	A	A	3.1.7	A	A	7.4.2	A	A
2.1.1	A	A	4.1.1	A	A	7.4.3	A	A
2.1.2	A	A	4.1.2	A	A	7.4.4	A	B
2.2.1	A	A	4.1.3	A	A	7.4.5	A	A
2.2.2	A	A	4.1.4	A	A	7.5.1	A	C
2.2.3	C	A	4.2.1	A	A	7.5.2	A	A
2.2.4	A	A	4.2.2	A	A	7.5.3	A	A
2.2.5	A	B	5.1.1	C	C	7.5.4	A	A
2.2.6	A	A	5.1.2	A	A	7.5.5	A	A
2.2.7	A	A	5.2.1	A	A	7.5.6	A	A
2.2.8	A	A	5.2.2	A	A	7.5.7	A	A
2.2.9	A	A	5.2.3	A	B	7.6.1	A	A
2.2.10	A	A	5.2.4	A	A	7.6.2	A	A
2.2.11	A	C	5.2.5	A	A	7.6.3	A	A
2.3.1	B	B	6.1.1	A	A			
2.3.2	A	A	6.1.2	A	A			
2.3.3	A	A	6.1.3	A	A			

【評価機関の所見】

1. 優れた取り組みと思われる点

スケール	所見
1-4-7	キャリアパス要件に、2年以上の業務経験職員に介護福祉士の資格を求めている。そのため、資格取得の受験日の出勤扱いや交通費の支給等の支援を行い、奨励している。その結果、職員の資格取得に対するモチベーション向上が図られ、介護職員のうち約90%の職員が資格を取得している。キャリアパスに資格保有を明示することで目標が明確になり、職員の取得に対する意識が深まった。
2-3-3	入居者・施設長・各課主任による運営懇談会で提案された意向や要望をチーフ会議で検討し、次回の運営懇談会で結果を報告している。要望等に対応することで、運営懇談会は入居者が自由に意見を言える場となっている。また、入居者との意見交換は職員の気づきを得る機会にもなっており、サービス向上のために運営懇談会を積極的かつ有効に活用していることがうかがえる。
4-1-4	入居者の生活が快適で心地よく過ごせるよう、外部サービスを導入している。訪問理美容が月に2回車で訪れる他、奇数月には近隣の大型スーパーの販売や、衣類に加え食料の移動販売も受け入れている。さらに、クリーニングや新聞などさまざまな外部サービスを取り入れており、運営懇談会やフロントでも常に入居者からの要望を聞き取りながら、入居者の生活を支援するためのサービス導入に取り組んでいる。
4-2-2	年間を通じてさまざまな行事やイベントを開催している。多目的ホールやサークルルームといった入居者が使用できる部屋を用意し、楽しみを提供している。さらに、お楽しみ食事会やドライブク、文化作品展などを開催し、実施にあたっては担当職員が行事企画書を作成するとともに、実施後には参加者や実施内容・反省感想等に加え決算も記載した報告書を作成して、次回に反映できるよう取り組んでいる。

2. さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点

スケール	所見
2-2-11	入居契約書に、契約終了時に通常の使用に伴い生じた居室の消耗を除き、原状回復することを入居者に求めている。費用負担・原状回復の方法は「原状回復をめぐるトラブルとガイドライン」を参考に協議すると示されている。しかし、ホームでは、その具体的な内容について明示した内規等が整備されていない。入居者や家族から説明を求められた際に、説明できるよう規程を作成し、内部研修で職員に周知することが望まれる。
2-4-2	業務マニュアルを整備して、業務の標準化を図るとともに、必要に応じて確認できるようにしている。マニュアルは必要なときに都度見直しをしているものの、一定時期に見直すしくみが整備されていない。マニュアルが現状に則したものとなっているか、あるいは業務の実施方法がマニュアルから逸脱していないかを検証するため、見直しの手順書を作成し、見直し結果について記録することが望ましい。
5-1-1	入居者の食事は職員の栄養士と調理員によって作られており、お花見弁当やクリスマスなど、四季折々の行事食を提供し、毎月お楽しみ食として入居者に喜んでもらえるような食事の提供に取り組んでいる。一方、現在、和食と洋食どちらかを選んだり、好みのおかずや麺を選択するなどの選択食は提供していない。今後は、食事の楽しみをより深めるためにも、バラエティに富んだ選択メニューの提供に期待したい。
7-5-1	入居者の高齢化に伴うADLの低下により身体の状態にもさまざまな変化が生じることもある。褥瘡もその変化の一つと言えるが、入居者が安心した生活が送れるよう、看護や介護スタッフが協働で褥瘡予防に取り組んでいる。しかしながら、褥瘡の予防やその対応についてのマニュアルは用意されていない。職員が褥瘡に対して一貫した対応ができるためのマニュアルの作成に取り組まなければならない。